

# 分苑たより

## なごみ

大本  
名古屋分苑

### 分苑長

#### 秋季大祭 挨拶

サルートンこんにちは  
キーエルヴィファルタスご  
機嫌如何でしょうか。

昨日までの雨天と違い、秋  
晴れのなか、令和六年の大本  
名古屋分苑秋季大祭ならび祖  
霊合同慰霊祭を、本部より青  
年部長穴井賢太郎様にお越し  
頂き、皆様と共に盛大に執り  
行わせていただきました。誠  
におめでとうございます。

今年の夏は、猛暑の連続で、  
教主さまは胃腸のバランスを  
崩され九月下旬まで入院され  
ておられました。十月六日  
の千 玄室さまの長生殿献茶  
式には、映像で元気なお姿を  
拝見させて頂きました。

小林本部長は、九月二十七  
日から脳出血で入院治療中  
ですが、ご無事で復帰されます  
ようにご祈願を継続していま

す。

十八日のお香良洲神社石碑  
建立記念祭典では教主さまの  
ご臨席を賜り、東は関東教区  
の方から南は南九州の方々が、  
雨の中参拝にお見えになり、  
無事に祈念碑の除幕が下ろさ  
れました。

これで、大本の石碑が建立  
された神社は出雲大社、香良  
洲神社と二つの神社となりま  
した。

教主さまより東海教区にお  
玉串を頂き、大神様にお供え  
させて頂きました。

この日、早くから案内係等  
でお世話頂いた方々にお  
疲れさまでした。

九月二十八・二十九日の葬  
祭研修会と祭式講習会に延べ  
二十八人の方々に参加して頂  
きました。

祭式を受講して頂いた方で、  
初心者の方に実技の要領を丁寧  
に教えていた人の姿を見て

いましたら、微笑ましくなり  
ました。挨拶の後、認定書の  
授与を行います。

信仰覚書七巻の真神の教は  
万古不易ばんこふえぎの中で、「霊地へお  
参りするということは、その  
気で参れば、かならずその  
神霊に通ずるものです。よし、  
その気で参らないにしても、  
その霊気には必然的にふれ  
るのですから結構です。

気持ちで常に神へ向かってい  
るつもりでも、信仰のよわい  
間は、その程度がごく稀薄で  
す。ところが、形の上からで  
も人間は大いに引きずられる  
ものですから、ある霊地にて、  
ある形式により修業する時は、  
内的へも必然に影響をうけて、  
いく分か前とは変わった気持  
ちになります。

第一義の大本、すなわち真神  
の教は万古不易です。

人間的大本は、第一義の大本  
への踏台にすぎません。そし  
て、他の宗教に比して、たし  
かに、よりよき踏台であるこ  
とが分かれば、これを信ずる  
ことはこの上もない結構なこ

とと思います。他の宗教と比  
較して、たしかによりよい踏  
台であるか否かは、各自の深  
刻な体験比較によってでなく  
ては分かりません。  
簡単に、一時的外形や感情に  
よって決定できるものではな  
いのです。  
知恵や技術よりも心がけであ  
る。」とお書きになっていま  
す。

本日の秋季大祭と祖霊合同  
慰霊祭にご参拝、誠にありが  
とうございました。  
コーランダンコン

### 行事報告

● 月始祭 十月五日（土）

- 参拝者 十四名
- 斎主 見田すみ子
- 祭員 畠山 亜美
- 祭員 日比 達朗
- 進行 五十川松子



● 海津市松植樹地 献劳作業  
十月十三日（日）、津島支  
部の月次祭終了後に植樹地へ  
移動し、十三時より休憩を挟  
み一時間半、草引き献劳作業  
を行った。清々しい気候に恵  
まれ、気持ち良く作業をする  
ことができた。  
参加者 妹尾正治 飯田和彦  
竹生 亨 日比達朗  
瓜生秀明 報告



●秋季大祭・祖霊合同慰霊祭

十月二十日(日)に大神様齋主・高嶋善雄分苑長、慰霊祭齋主・近藤哲史財務部長のもと、本部より穴井賢太郎青年部長をお迎えして厳肅に執行され、祭典後には八雲琴「百枝の松」が奉納された。

直会后、穴井賢太郎青年部長による講話「大本青年部のあゆみ」発足六十周年を迎えて」を聴講した。引き続き、誠心会により恒例の福引が行われ、神饌物のお下がりの鯛、お餅、お神酒の景品が当選者に渡され、楽しいひと時を過ごした。



(大祭関係者含む)

参加者八十二名

執行委員長 久野武男

執行副委員長 堀健太郎



☆前日は十時から直心会・準備委員により分苑の清掃・祭典準備が行われた。



●分苑誠心会 綾部献勞奉仕

十月二十六日午後から金龍海の大八洲、二十七日は朝から冠島・杵島の刈草除去を行いました。刈草をビニール袋に入れる時、作務衣に引つ付き虫が多量にくつつき除去が大変でした。

午後からは例祭に参拝いたしました。

参加者 石原松生 畠山茂

小林清人 鈴木克彦

日比達朗 高嶋善雄



忍び草

半田会合所

森川光男 毘古

享年 七十歳

令和六年八月二十四日帰幽  
城北分所

宣伝使 永田順一 毘古

享年 八十歳

令和六年十月十五日 帰幽  
謹んで哀悼の意を表します

行事予定

十一月十七日(日)

月次祭 午前十時半より

十二月七日(土)

月始祭 午後一時半より

総代会(令和七年度予算)

じいじの道草雑話【凸凹夫婦】

特任宣伝使 妹尾正治

我が家は凸凹夫婦である、

と云ってもどっちが凸でどっちが凹かは決まっていない。

奥さんは綺麗好きで、有った物は元の所がないと気が済まない様だ、一方じいじは遣りっ放しで、さっきまで持っていた物を探し回る事しばしばである。

奥さんはおおらか性分で「明日は明日の風が吹く」、だが、じいじは見た目以上に神経質で、つい余計な心配をしてしまう。

しかしよく考えると、これが夫婦円満の秘訣かも知れない。二人とも神経質だと息が詰まってしまう、と云って二人とも「どこ吹く風」では我が家の(妹尾丸)も何処へ辿り着

くか分かった物でない。

じいじは、この理論を数学的に解明しようと考えた。

凸という形には六つの角が存在する、一方凹と云う形にも六つの角が有る。

凸と凸がくつくと、角は十二個から八つに減少するが、

凹と凹がくつくと、角は十二個から四つまで減少するが、

中に大きな空洞が出来てしまう。

矢張り凸と凹がくつくと、角は四つに減り空洞も無い。

奥さんが怒り狂った時にはひたすら暴風が過ぎ去るのを待つ・・・こちらの怒りが沸き起

こつてもひたすら忍耐の限りを尽くす。

仲良くやっていくのには、互いに思いやりを持って暮らしていく事が大切である。家の山の神の一言が全てである

『家がうまく行っているのは私が辛抱しているからでしょ』この一言にはマイッタ・・・

じいじである。

